

①啓発品の作成



②ロゴ等を活用した啓発活動

○車へのマグネットステッカー貼り付け



○ポスター掲示、映像の放映



○ホームページの開設





### ③講座、該当啓発等の実施

#### ○出張講座の実施



#### ○知床横断道路開通式・キャンペーンキックオフイベント



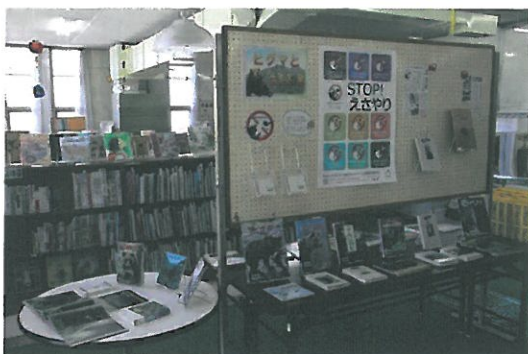
#### ○地元の子供たちによる啓発活動



#### ○強化月間の設定と街頭啓発の実施



○公共施設での関連企画の実施



⑤民間支援企業等との連携





共存図って事故防ごう

# ヒグマ餌やりSTOP

## 斜里・羅臼でキャンペーン

環境省、道森林管理  
局、斜里町、知床斜里  
町観光協会が3年間に  
行なわれる「STOP! え  
さやり」と題したポス  
ターは、餌やり禁止の  
マークに、青や赤、緑  
など鮮やかな色使いで  
観光客の目を引く。  
26日予定の知床横断  
道（国道384号）の  
開通式で斜里と羅臼  
の両側のゲートでそれ  
ぞれ、チラシやポス  
ターなどを配布する。  
今後、餌やりや食  
物の放置、クマへの接  
近禁止を呼び掛ける際  
は、動物投訴サイト  
「エチエチ」で公  
開するなど啓発力を

## チラシ配布、動画投稿も

26日から  
斜里町では26日朝に  
中心市街地でクマと  
が出没している。人  
の食べ物の味を嗅ぎ  
人畜に近づくと、威  
嚇するようになる  
ため、実行委員の上  
野賢司・同観光協会  
長は「野生動物との共  
存に向けた出発点とし  
て、全道へ広めた  
い」と話した。  
チラシの昨年度の目  
録数は斜里町で176  
8件に達し、前年度の  
約2倍、1998年度  
の統計開始以来最多と  
なった。  
ポスターも、ヒグマ  
の餌やり禁止を呼び



【斜里・羅臼】ヒグマによる事故を防ぐため「知床ヒグマえさやり禁止キャンペーン」が26日、オホーツク管内斜里町と羅臼町で始まる。26日には斜里町トロピカルホールが開かれ、啓発ポスターなどが披露された。

## ヒグマ餌やり禁止グッズ完成

### 横断道路開通日に配布



斜里町では昨年度、ヒグマ目撃件数は世界  
自然遺産地域内を中心  
としたヒグマと  
共存を目指し、3年  
間実施する。  
知床横断道の開  
通に合わせて、観光客  
に配布する。  
お披露目されたグッ  
ズは26日に予定されて  
いる知床横断道の開  
通式に合わせ、観光客  
に配布する。  
斜里町では昨年度  
ヒグマ目撃件数は世界  
自然遺産地域内を中心  
としたヒグマと  
共存を目指し、3年  
間実施する。  
知床横断道の開  
通に合わせて、観光客  
に配布する。  
お披露目されたグッ  
ズは26日に予定されて  
いる知床横断道の開  
通式に合わせ、観光客  
に配布する。

に1768件のほ  
り、前年度は前  
年度より倍以上な  
ったことを踏まえ、知  
床斜里町観光協会が自  
然ガイド団体、環境省  
など連携機関が「ヒ  
グマの餌やりとヒグマ  
の共存を目指す知床の  
基本姿勢が、全国に広  
がらば」と話していた  
観光庁の6月  
中旬から7月上旬には、  
別地区の道庁知床公園  
線で通行車両を止め、  
グッズを配布する「アン  
ソイベント」も予定  
している。



# ヒグマに餌やりお断り

## 知床の観光協会などキャンペーン実施

観光シーズンスタートを前に、今春から知床を始めるとグマへの「餌やり禁止」を呼びかけるキャンペーンのポスターが22日、斜里町と上川町のポスターで披露された。知床横断道の開通日に合わせ、早ければ28日から、観光客に配布する予定だ。

キャンペーンは知床斜里 林管理局の4機関で実行委  
観光協会が提案。同協会、 員会を作り、同協会の上野  
斜里町、環境省、北海道森 洋回会員が委員長を務め



ポスターやステッカーを手にヒグマへの餌やり禁止を呼びかけるキャンペーン企画実行委員会の上野洋回委員長（左下）たち＝斜里町

この日はキャンペーン用のロゴマークをあしらったポスターや、車に貼るマグネットやステッカー、缶バッチなどを披露した。ロゴは赤い禁止マークの中は、ロケットを持った人の手がヒグマの口を餌をさすサインで、これに「STOP! えさやり」の文字を盛り込んだ。知床横断道の開通日は午前8時から、斜里側と羅臼側のゲート前で、開通を待つ車の観光客各300人を対象にパンフレットと缶バッチ、お土産用の羅臼昆布をま渡し、野生動物に対する正しい知識やマナーの啓発を呼びかける。一方、動画サイト「YouTube」では実際に知床

## 横断道再開に合わせ ポスターなど披露

で観光客がヒグマに餌をやるお断りしている現状などを盛り込んだ「ヒグマにエサをやらなさい」（8分54秒）を配信。フェイスブックでもキャンペーンの最新情報を掲載している。

斜里町では昨年度、1788件のヒグマの目撃があった。前年度の2倍以上で、このうち1581件が国立公園内だ。今年は8月以降、冬眠が自覚されたヒグマの目撃情報が20件ほど寄せられている。こうした中、「餌やり」は人身事故が起きる危険性だけでなく、馬のけいひつやを駆除しなければならなくなることもある。

上野氏は「知床はヒグマが生態系を支える観光地。自然と観光が共存するための象徴的な取り組みとして、全国に理解が広がっていることを喜ぶ。正しい観光客が増える真摯に向き合った企画を願う」と話した。

（森田 悠）

# ヒグマに餌 STOP!

世界自然遺産の知床で、ヒグマに餌を与えないように呼びかける「えさやり禁止キャンペーン」のポスターやマグネット缶バッチが完成した。キャンペーンを企画する実行委員会では、26日までに予定されている国道334号「知床横断道」の開通式に合わせて缶バッチなどをドライブパ

ーに配布する。実行委は、環境省や北海道森林管理員、斜里町、知床斜里町観光協会が構成されている。ポスターや缶バッチには人間の手からヒグマがリンゴやバナナをもらう行為を警告するイラストが描か

## ポスターや缶バッチ完成 知床でキャンペーン

れ「STOP! えさやり」のキャッチコピーが添えられていた。キャンペーンの第一弾では、斜里町側または羅臼町側のゲート前で開通を待つドライバーに缶バッチやパンフレット、羅臼昆布を配布する。斜里側のゲート前には横断道も通る。



ヒグマへのえさやり禁止キャンペーンのポスターなど配布する実行委員会メンバーたち（斜里町と上川町）

知床ではヒグマに餌を与え、観光客が後を絶たず、ヒグマが人里や治道に出没する回数が増えている。2012年度の斜里、羅臼両町でのヒグマ目撃件数は2155件と、この数年で急増している。このため実行委は、人とヒグマの適正距離の回復を目指してキャンペーンを3年間実施する。

6月下旬～7月上旬にはキャンペーン第一弾として、1週間程度の「夏のえさやり禁止強化週間」を設け、観光客にチラシを配布、啓発活動を展開する。

実行委員長の上野洋司・知床斜里町観光協会会長は「キャンペーンを通じて知床で自然と人間が共存していく姿勢を全国に示したい」と話している。



森にごみ捨てないで

里

「えさやり禁止」児童訴え 斜

【斜里】ウトロを中を植えた後に、「知床心に活動する知床愛護ヒクマえさやり禁止手少年団の小学生18人が「森にごみを捨てないでね」と観光客に呼びかけた。28日、道の駅うとろ・シリエトクの花壇に花



「STOP! えさやり」を観光客らに呼びかける子供たち

らにPRした。子供らは、森で拾った松ぼっくりや木を使

って動物などのクラフトを自作し、「森のなにかまとながよしになる

園長で同町の自営業、横内正元さん(53)

(若月誠通信員)

## 知床ヒグマえさやり禁止キャンペーン

# 観光客の評価高く

### 実行委調査 半数知らず周知課題

【鶴岡】ヒグマとの事故を防ぐための「知床ヒグマえさやり禁止キャンペーン」が4月にスタートしてから半年余り。オホーツク管内斜里町や稚穂町、知床斜里町観光協会などによる実行委が実施した観光客へのアンケートの結果、キャンペーンに対する評価が高いことが分かった。実行委は来年度以降、啓発活動を強化する方針だ。

(谷本雄也)



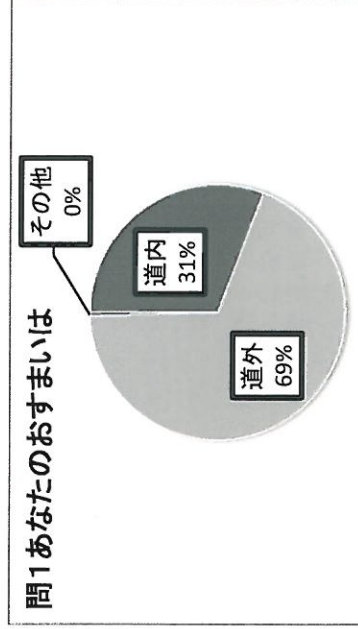
キャンペーン強化月間を含む、知床自然センター前で実行委が実施したチラシ配布やアンケートの回収日

3カ年で取り組むキャンペーンでは初年度の今年、「STOP! えさやり」と記したポスターを町内に掲示したり、ロシアのスキーカーを運転した車を走らせたりして、餌やりや食べ物の放置、ゴミへの接近の禁止を訴えてきた。観光客が増える、8月には強化月間として実行委メンバーが道の駅らる・シシエとく知床自然センター周辺でチラシを配布。同時に街頭調査を行い、約100件の回答を回収した。10月28日に町内で開かれた実行委の会合で、アンケート結果が発表された。キャンペーンについての評価を記入方式で聞いたところ、「ヒグマを共存するために必要」「野生動物に与える影響が大きいと感じたなど、好意的な意見が多かった。反面、キャンペーンのものを知らない(知らなかった)と答えた人も半数近くに上り、周知徹底の必要性が浮き彫りとなった。来年度以降について、機関団体から町内にもまわらず、空港や駅など町外でも呼び掛け方が良いといった意見が上がり、実行委は「また最初の一歩を踏み出した段階。地道にはたなく全道全国に活動の輪を広げていきたい」としている。



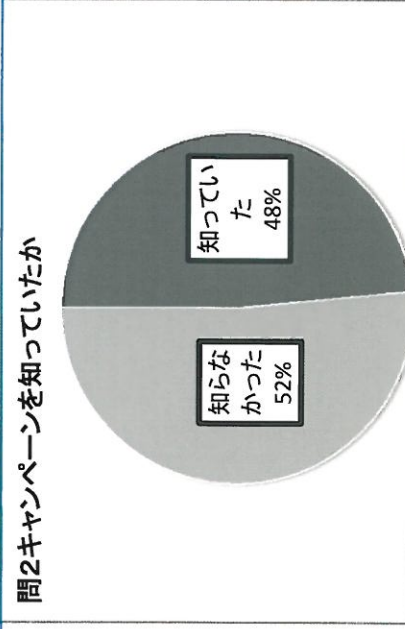
■ キャンペーン実施設置場所及び回収枚数

回数	実施日	実施場所	回収
1	7/13	カムイワッカ	48
2	7/18	道の駅（シリエトク）	65
3	7/31	自然センター	42
4	8/6	知床五湖	125
5	8/9	自然センター	63
6	8/12	道の駅（シリエトク）	162
7	8/18	知床五湖	102
7	合計		607



あなたのお住まいは	道内	道外	その他	合計
	187	417	3	607

- ◇ 【道内】 187
- ◇ 【道外】 420
  - 東北 31
  - 関東 238
  - 中部 45
  - 関西 70
  - 中国 9
  - 四国 6
  - 九州 6
  - 沖縄 18
- ◇ 【海外】 3
  - 台湾・香港

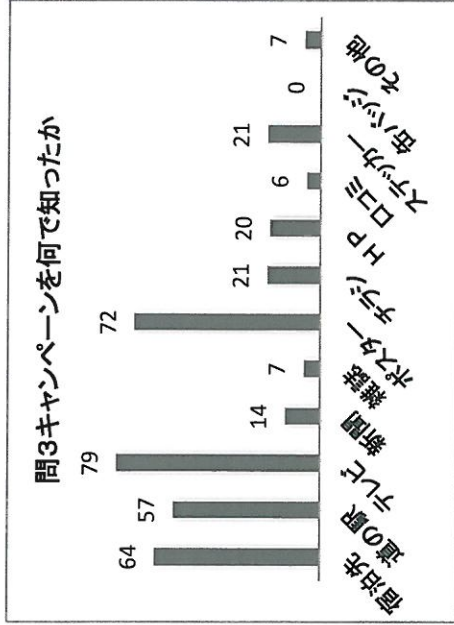


問2	えさやりキャンペーンのことが知っていましたか	知っていた	知らなかった	合計
		294	313	607

- ◇ キャンペーンを知っていた 294人
- ◇ キャンペーンを知らなかった 313人

※半数以上の方が知らなかったと回答している。

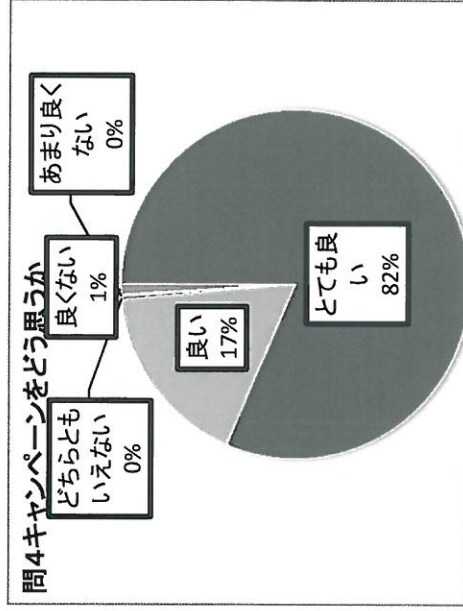
問3 キャンペーンを何で知ったか	宿泊先	64
	道の駅	57
	テレビ	79
	新聞	14
	雑誌	7
	ポスター	72
	チラシ	21
	HP	20
	口コミ	6
	ステッカー	21
	缶バッジ	0
その他	7	
合計	368	



◇キャンペーンを何で知ったか？

- ・テレビ・ポスター・宿泊先・道の駅・道の駅・ステッカー・チラシ
  - ・HP・口コミ・新聞/雑誌
- ※ポスター・道の駅トイレ等は効果的である。その他の順になっている。

問4 キャンペーンについてどう思うか	とても良い	494
	良い	104
	どちらともいいえない	2
	あまり良くない	1
	良くない	6



◇キャンペーンをどう思うか？

とても良い・良いが 98.5%とキャンペーンに対し支持されている

※あまり良くない・良くないと回答中にはコメント欄に「ヒグマにえさをやるのが良くない



## 頂いたご意見・ご要望

### (1) キャンペーン実施について

- クマのみではなく野生動物の餌付けは良くないと思うえさをやる人は少ないと思うけど啓発するのは良い事だと思う
- NHKでもキャンペーンの事やってお知り知ったこんなにもキャンペーンを行っているとは思わなかった。もっと多くの人に人にこの事を教えてあげようと思う。
- 自然のために非常に良いと思う 今後も活動を続ける必要があると思います
- 人と野生動物の程よい距離が必要だと思うので
- 人間と動物の共存のために大切だと思う もともどもでしょう。自然に共存・地球を守りましょう
- ヒグマを守るためには必要な事
- ヒグマばかりではなく、全ての野生動物に必要な事
- このキャンペーンをもっと広げて続けて行ってほしい
- ヒグマのためにはもちろんですが自然保護のためにもともとも良いと思います
- 熊にとっても人にとっても悲しい結果になってしまうから 大事なキャンペーンだと思います！頑張ってください
- 道外での周知も必須 頑張ってください
- キャンペーンは大切だと思います。野生動物なので人に近づくのは良くないから人間とヒグマがよい距離間でこの先も暮らして欲しいと思います。
- エサを与えたことが結果的にあのような事実になってしまっている事を知ることができた
- 知らない人もいるのでキャンペーンは良いことだと思う
- 動物達が生息している場所に人間が入る訳なので、そして動物達が安心して暮らせるようにエサやりSTOPに賛成です
- 自然を守るため、美しい自然を守る事が大切だと思うので観光客として、自然の付き合い方を学ばさばさだと思えます。
- 知床の生態系を守るのに大切だと思う
- ヒグマを守るため、一人ひとりが意識し合い自然を守っていくことが大切だと思います。
- 野生ヒグマを守るために良いと思います。知床は2回目です。知床にも自然を守ってほしい。 これからも自然を守るために頑張ってください。
- 観光客はすぐエサをあげようとするのでセーブするためにキャンペーンは重要
- ヒグマと共存したいからいいキャンペーンだと思う
- 餌付けしたあとのヒグマの悲劇が印象に残った キャンペーンを続けて行って下さい
- ヒグマと共存するためにも大切なことだと思います 知床の素晴らしい自然を守るために必要な運動だと思う
- たったソーセージ1本でヒグマの人生を変えたことを初めて知りました。良いキャンペーンだと思います
- 道の駅に記事があったって知りました。この事を知って本当に良かったと思います。ステッカーもとても良いです

